慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	汐見三郎著 経済統計研究
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.2 (1923. 2) ,p.310(152)- 311(153)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230201-0152

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

なる手段を採るべきかを示し、更に第三の節に於ては一兩年來屢々問題となつた所の船舶合同に關して其の利害、方法、實行の徑路等を論じて本文二百七十五頁を終つて居る。而して五十八頁に亘る附錄には、本邦に於ける主要汽船會社十社の沿革、現狀が述べられて居る。

全篇を通じて平明流暢の筆致を以て事實を叙し事理を語つて居る點、特に「お手のもの」の豐富な材料を巧みに使ひこなして本邦の海運を取扱つて居る點は本書の長所とする所である。唯、一般國民の經濟生活と關係深きコンフェレンスの本邦を中心としての實狀が毫も之によつて窺ひ知られなかつたことは幾分失望せざるを得なかつた所であるが、然し一と通り海運に就ての豫備知識を有する者にとつては勿論、全くの門外漢にとつても、一個の有益なる書み物たるを失はない。私は元來、鐵道や其の他一般の交通の如く、技術や實務と深い關聯を有するものに關しては、實際家の知識に待つにあらざれば了解充分なる能はざるものあるにも拘らず、從來我國に於ては實際家の此の方面に於ける活躍を見るに至らざりしことを豫てから遺憾として來たのであるが、今、伊東氏の此の著書に接して豫ての希望の一端が充たされて愉快の念を禁ずることが出來ない。私は之を機會として爾後益々多數の實際家の間から此の方面の著書の續出するに至らむことを希望して已まないものである。（增井幸雄）

汐見三郎著　經濟統計研究

菊判三六六頁附錄五七頁
定價金三圓八拾錢
內外出版株式會社

經濟學上の諸問題を論ずるに方つて統計的研究の忽せにすべからざることは久しく唱へらるゝところであるが、我が國に於いてはその反響を傳へるものが洵に乏しい。これは一には據るべき資料の尠いことにも原因してゐるであらうが、また一にはこれを行ふことの容易でないことにも原因してゐると思ふ。然かるに汐見助教授は挺身この至難の業にあたり、續々その研究を「經濟論叢」に寄せ、我が學界に於いて殆んど未拓の境地に就き多大の貢献をなしつゝあるは、畏敬措く能はざるところである。

助教授が如何なる問題を取扱ふに方つても、頗る用意周到にして然かも陷り易き左顧右眄の弊に墮せず、信ずるところを直截に披瀝して遲疑せざる鋭敏の筆鋒を以つてするは、一度その所論に接したるものゝ容易に首肯するところであらう。本書收錄する雄篇十七、而して論ずる範圍、國民所得分配狀態の測定方法、我が國に於ける國民所得の發達及び地方分布、「國富統計」批判、所得稅均等負擔の問題、累進稅の公平犧牲說に關する統計的觀察、租稅負擔の地方別研究、新所得稅に關する武藤氏との論爭、生計調査論と之が二種の實地調査の報告、物價騰貴と通貨との關係幷びに之に關する福田博士との論爭、指數論、兌換劵發行額に關する二論文、孰れも出色の文字たらざるはない。然かも篇中隨所に利用せられたる統計が、乏しき資料を索ねて苦心したる結果なるを知るに於いて、眞摯なる助教授の研究に對する畏敬の念は更らに深からざるを得ない。

新たに上梓して世に問ふこの論文集を手にし「高尙なる事實を捕へて幽玄なる理論を說く事は其任にあらざるを自覺してゐる。茲に於いてか手近にある平凡なる經濟現象を研究の對象として統計的研究を試みる事を自己の學問的態度と定めたのである」といふ謙讓の裡に藏するその抱負を窃ひ、切に將來の寄與を祈つて已まない次第である。（園乾治）